ネガティブ・ライフイベントと青年期のメンタルヘルス

心的外傷後成長 (PTG) および心的外傷後ストレス症状 (PTSS) による媒介モデル

○西川里織^{1,2}・小島雅彦¹・藤澤隆史¹・友田明美¹

(¹福井大学子どものこころの発達研究センター ²熊本大学大学院人文社会科学研究所)

キーワード: ネガティブ・ライフイベント, 抑うつ, 心的外傷後成長, 心的外傷後ストレス症状

Negative Life Events and Adolescent Depression with PTG and PTSS as mediators.
Saori NISHIKAWA, Takashi FUJISAWA, Masahiko KOJIMA, Akemi TOMODA

(¹Research Center for Child Mental Development, Fukui University, ²Graduate School of Humanities and Social Sciences, Kumamoto University)

Key Words: Negative Life Events, Depression, Post-traumatic Growth, Post Traumatic Stress Symptoms

目 的

青年期のメンタルヘルスを脅かしている問題の一つにネガティブ・ライフイベント (Negative Life Events: NLE) を原因とする心的外傷後ストレス症状 (Posttraumatic Stress Symptoms: PTSS) がある。外 傷 後 ス ト レ ス 障 害 (Posttraumatic Stress Disorder: PTSD) の基準に示される身体生命にとって危機となるような体験でなくても, NLE を体験することで, その後 PTSS を示す可能性が指摘されている。これまでに, 心的外傷後成長 (Post Traumatic Growth: PTG) やレジリエンス特性が高いほど抑うつが低くなる傾向が報告されたが, 青年期の PTG や逆境経験への特性レジリエンスを特徴付ける成年期のメンタルヘルス問題のリスクと保護因子はほとんど知られていない。PTSS に関する初期の研究は, 災害や戦争などのネガティブ/ストレスフルなライフイベントに焦点を当てられたが, 日常生活における NLE に関連する PTSS に焦点を当てた研究はほとんどない。そこで本研究は, NLE によるメンタルヘルスへの影響が PTG と PTSS によって媒介されるかを調べ NLE によるメンタルヘルスの複雑な関係性を検証した。

方 法

研究対象者: 1038 名の健常な高校生 (男子 648 名と女子 390 名, 平均年齢 = 15.71 歳, SD = 0.524) を対象とした。
手続き: 協力者は本研究に関する説明を受けた後, 質問紙に回答をした。「現在のメンタルヘルスに一番影響を与えている出来事」を NLE とし, 「親しい人の死」, 「親の離婚」, 「親子関係」, 「学業や入試」, 「家庭の経済問題」, 「いじめ」, 「友人や異性との関係」, 「自分の病気やけが」, 「事故や災害」, 「その他」の項目の中から 1 つ選択した。次に, 回答した NLE に対して, その当時に感じたストレスの強度を 4 段階で評定し, 以下の日本語版の質問紙に回答した。① NLE に対する心的外傷後ストレス症状 (PTSS) を測る IES-R (Impact of Event Scale-Revised; Asukai et al., 2002), ②外傷後成長尺 (Posttraumatic Growth Inventory; PTGI-J, Taku et al., 2007), ③児童用抑うつ自己評価尺度 (Birleson Depression Self-Rating Scale for Children; DSRS, Murata, 1996), ④逆境経験への特性レジリエンス (ER-89, Hata U, Onodera A, 2013)。

結 果

SPSS(ver22)を利用した記述統計では, PTSS は, うつ症状, PTG, 過去のストレスと現在のストレス ($r = -0.17$ と -0.23 , $p < 0.001$ と 0.05) と正の相関があり, 特性レジリエンススコアと負の相関があった ($r = -0.17$ および -0.23 , $p < 0.001$ および 0.05)。単変量 F 検定では, NLE の起こった時期によるうつ症状, PTSS, および PTG への有意な主効果が出た。最近の NLE (高校群) を報告した参加者 ($n = 255$) を除く単変量 F 検定では, NLE の時期が PTSS に有

意な主効果を示した (両者とも $p < 0.05$)。小学校前 (6 歳以下) で NLE を経験した群は, 小学校または中学校でそのような事象を経験した群よりも有意に高い PTSS レベルを示した ($p < 0.05$)。

Amos ver. 21 (IBM SPSS 社製) を使用し, 独立変数 (NLE による過去のストレスおよび特性レジリエンス), 従属変数 (抑うつおよび NLE による現在のストレス) ならびに媒介変数 (PTSS および PTG) による直接的および間接的な影響を評価するためにモデルを構成し, 共分散構造分析を用いてモデルの妥当性について評価を行った。PTSS と PTG を媒介役とした過去のストレス, 特性レジリエンス, 抑うつと現在のストレスを結ぶパスはすべて有意であった ($p < 0.001$, $p < 0.005$)。全体のモデルはデータに適合し ($F(2, 27) = 2.388$, $p = 0.303$), NLE による過去のストレスおよび特性レジリエンスが PTSS と PTG を媒介し抑うつ症状と NLE による現在のストレスに影響することを示した (CMIN / df = 1.19, CFI = 1.000, RMSEA = 0.000, IFI = 1.000 (図 1 参照))。

考 察

本研究は, NLE の時期とストレス強度は PTG および現在の抑うつと関連していることを示した。より若い年齢での NLE の経験はその後のうつ症状をもたらす。NLE に伴うストレスと安定した特性レジリエンスは, PTG を高める一方で PTSS を低くし, 現在のメンタルヘルス問題を軽減する可能性を示唆している。メンタルヘルス問題では媒介としての PTG を高めることが必要であると思われ, さらに PTG が高まるためにはストレス強度が適度に高いだけでなく, 経験した NLE の持つ意味合いを考えるなどの認知の変化につながる体験が必要なのではないかと推察できる。

図 1. NLE に関する PTSS と PTG の媒介モデル

参考文献 Nishikawa, S., Fujisawa, T., Kojima, M., & Tomoda, A. (2018). Type and Timing of Negative Life Events Are Associated with Adolescent Depression. *Front. Psychiatry*, 14.